

環境報告書 2020



<https://www.fruehauf.co.jp/>

日本フルーフ株式会社

厚木本社工場

〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原 3034
TEL046-285-3111

東京オフィス

〒105-8681 東京都港区新橋 1-1-13 アーバンネット内幸町ビル

品川オフィス

〒108-0075 東京都港区港南 1-6-34 品川イーストビル 7F
TEL03-3474-5641



contents

- 2 編集方針
- 3 ごあいさつ / 環境方針
- 4 環境活動の紹介
- 5 日本フルハーフグループの環境活動の考え方
- 8 活動トピックス
- 10 フルハーフのばら
- 11 環境パフォーマンスデータ



編集方針

日本フルハーフグループの環境活動に関する考え方や取り組みについて、ステークホルダーの皆さまにわかりやすく報告し、ご理解いただくことを目指しています。それぞれの課題に対する取り組みをご覧いただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間

本報告書のデータ集計期間は、2019年4月～2020年3月です。

対象範囲

特に指定しない場合は、日本フルハーフ及び、日本国内の連結対象子会社6社。

発行時期

2020年12月(次回2021年12月予定)

お問い合わせ

日本フルハーフ株式会社 環境保全室
〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034
TEL: 046-286-8870(直通)
<https://www.fruehauf.co.jp/>

ごあいさつ

2020年度版の環境報告書をお届けいたします。

この冊子では弊社の環境マネジメントのあらましをご紹介しますとともに、2020年4月1日に新たに発足致しました「環境保全室」を中心に検討を行ってまいりました、これからの環境活動に取り組む弊社の考え方を紹介しています。

弊社では地球環境を保護し、私たちの生活が少しでも向上するよう、「CSR環境会議」において議論を繰り返し、「気候変動に対する対応」、「大切な地球資源の循環」、そして「貴重な水資源の保護」の3つのテーマに対する課題をとりあげ、今後の環境活動の基本に据えてゆく所存です。

そして、従業員が取り組んでまいりました日常の環境活動につきましてもご紹介をいたしますので、ぜひ、併せてごらんいただきたく思います。

お客様が満足いただける商品をお届けすることはもちろん、私たちが行う事業活動のすべてが環境負荷を極力減らし、加えて私たちの行う社会活動が現在の地球の環境問題を解決する方向に貢献する、そのような姿に向かってフルハーフは従業員一丸となって邁進してまいります。



代表取締役社長
昼間 弘康

環境方針

日本フルハーフは、地球環境に優しい技術を常に追求すると共に、環境保全を十分に意識したトレーラ、バン型ボデー等の生産活動等を通じて、環境保護に率先して取り組み、豊かな社会の実現、維持に貢献します。

1. 環境に優しい製品の提供

生産活動、ならびに製品の提供においては、その環境課題に積極的に、且つ継続的改善をもって取り組むと共に、環境負荷の低減をめざし汚染の予防に取り組めます。

2. 環境保全の推進

全ての事業活動において、法規制の順守はもとより、社会の要求事項にも積極的に応え、環境保全活動に取り組めます。

3. 環境を配慮した事業活動の実現

全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、グリーン調達、リサイクルに組み込み、さらには、これらを見直すことにより、かぎりある地球資源の保護に取り組めます。

4. より良い環境活動の実現

日本フルハーフ、及び関連会社全従業員が、地球環境保護の大切さを認識・自覚するよう、啓蒙活動に取り組めます。また、社会との調和・共栄をめざし、事業活動以外での環境活動にも取り組めます。

5. 環境方針の公開

本環境方針は、社外の要求、その他の必要に応じて一般に公開します。

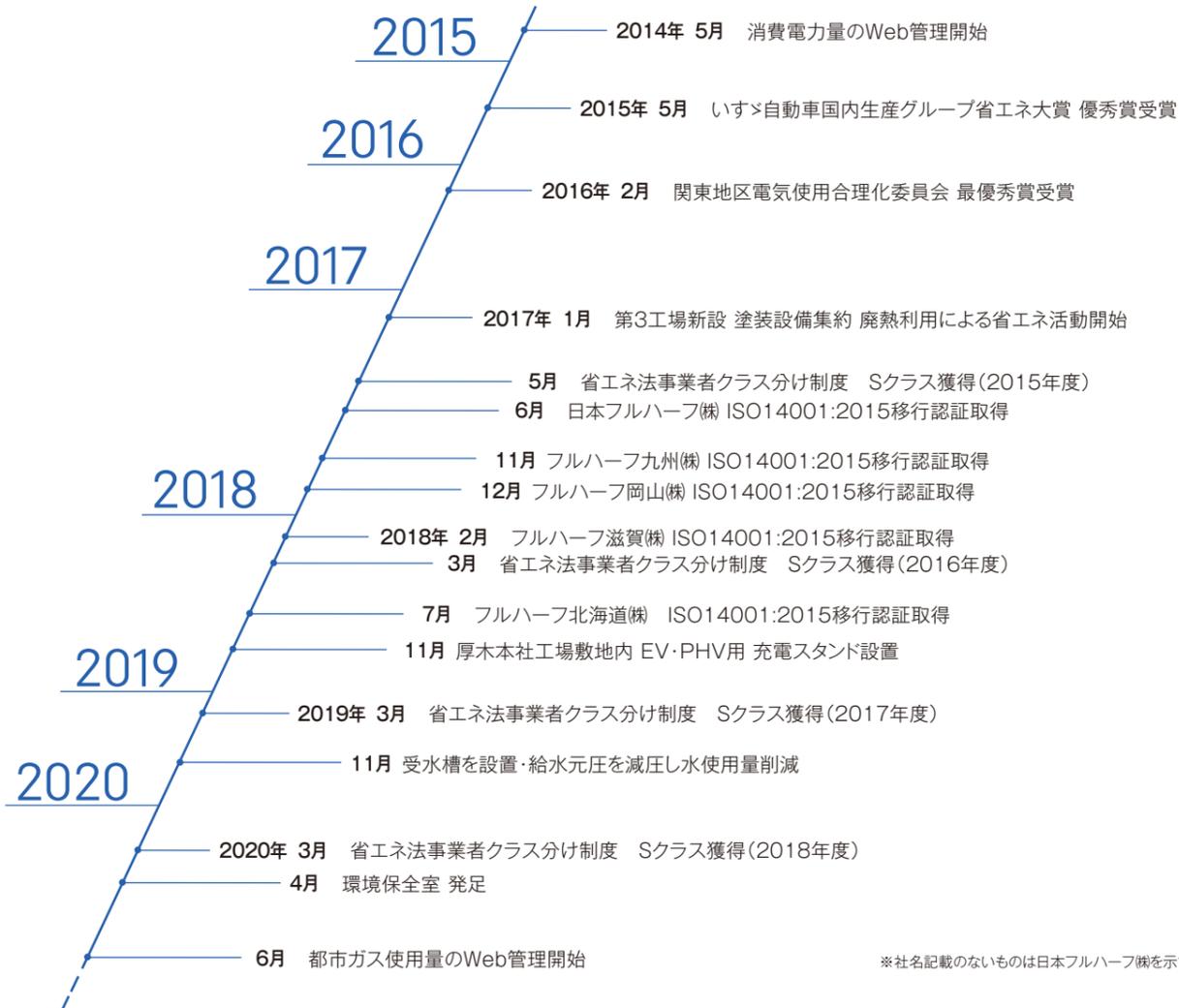


環境推進体制図

環境経営に関する活動方針は、社長、役員、各室・部から構成される「CSR環境会議」で審議・決定されます。
 活動方針を基に、各室・部が環境保全について取り組み計画を設定し、実行できることから少しずつ活動をしています。
 各室・部には「環境・省エネ担当者」を置き、「環境・省エネ担当者会議」で議論することで活動推進のヒントにしています。その活動はエネルギー管理士を中心とする「省エネ推進部会」からエネルギー使用量の報告、エネルギー有効活用の提言があり、環境活動がより有効になるように工夫しています。こうした活動成果は、「CSR環境会議」でレビューされ、成果が出ているか確認し、今後の進め方について決定されます。



環境活動の沿革

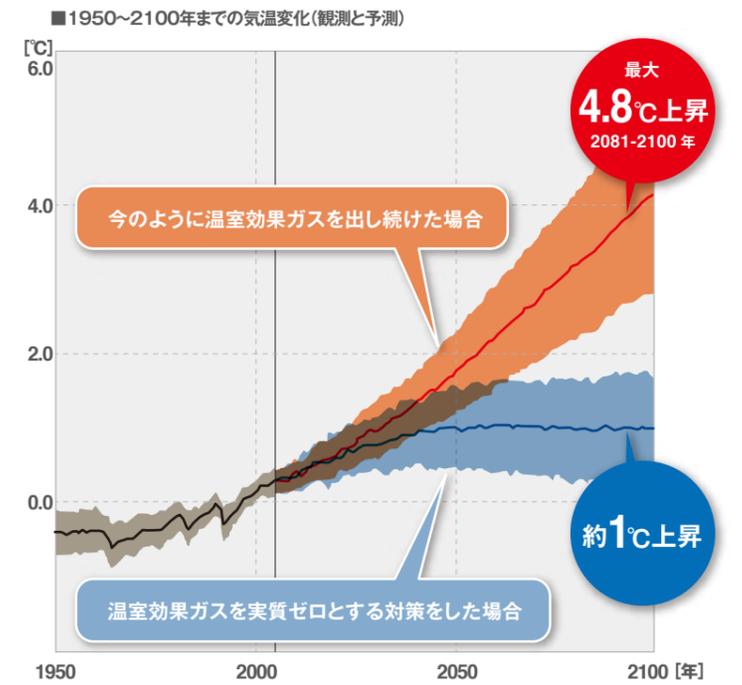


気候変動対応

気候変動対応の現状

- 世界は、以前より地球温暖化に対する社会への影響が議論されてきました。ここ数年は毎年のように世界各地で洪水被害や森林火災、食物の不作などが報告されています。これらは地球温暖化が原因と考えられており、問題の程度は年々深刻さを増しています。
- これらの問題は、私たち日本フルハーフグループも影響を及ぼし、また及ぼされているものです。このまま何もしなければ、私たちの社会生活が維持できない、ひいては事業活動が存続できないといった事態になりかねません。
- 2016年に発効した「パリ協定」で、世界各国は地球の平均気温の上昇を、産業革命時に比べ2℃に抑える目標、1.5℃に抑える努力を追求することを決めました。その後、1.5℃に抑えるには世界の温室効果ガス排出量を2050年頃に実質ゼロにする必要があるという報告(※)がなされました。世界は、企業は、私たちは、温室効果ガス排出量を実質ゼロとする、「脱炭素社会」実現に向けた活動が始まっています。

※IPCC(気候変動に関する政府間パネル)「1.5度特別報告書」2018年11月

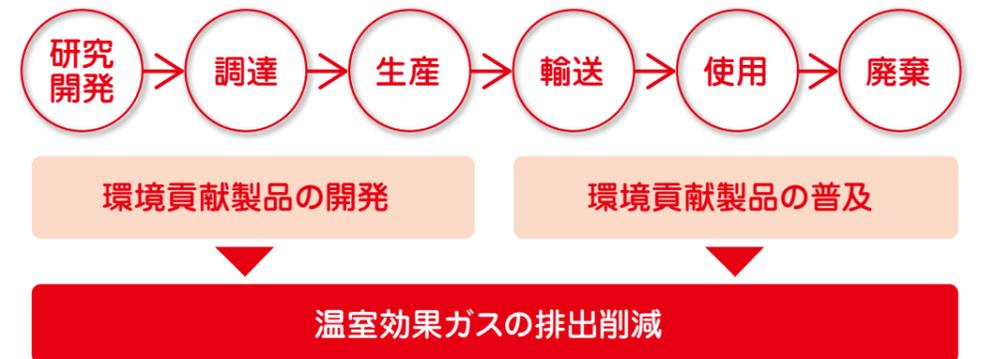


グラフ:IPCC第5次評価報告書及び全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)資料を参考に当社作成

フルハーフの考え方

日本フルハーフグループでは、製品の生産に関わる活動の温室効果ガス排出量は把握していますが、商品を社会に生み出す責任から、製品ライフサイクル全体における温室効果ガスの排出量を把握するところからはじめ、影響が大きいところは何かを見極めます。

そして、商品の開発から、生産、普及、廃棄に至るまでの間に、直接温室効果ガス排出量を減少させる活動に取り組みます。それと同時に、自然環境保護などの活動にも一つずつ取り組んでいきます。



日本フルーフグループの環境活動の考え方



資源循環

資源循環の現状

- 現在でも、世界的に人口が増加しています。また人類はより豊かな生活を求め、過去よりも大量に生産、大量に消費しています。この状態のまま資源を大量に使っていけば、いずれ近い将来資源は枯渇し、私たちは社会生活を維持できなくなる恐れがあります。企業としてみると、事業活動を継続するための資源が獲得できなくなる恐れがあります。
- 大量の消費によって廃棄物が増えれば、適正な処理が追い付かなくなり、環境汚染が進行することが予想されます。このことは企業にとっても事業継続に支障が出るなど、大きなリスクとなることが考えられます。
- 私たちが環境に配慮し、廃棄物を削減・再利用・再資源化することは、持続可能な社会を実現するために、またお客様に安心して商品をお届けするために、とても重要なことです。



フルーフの考え方

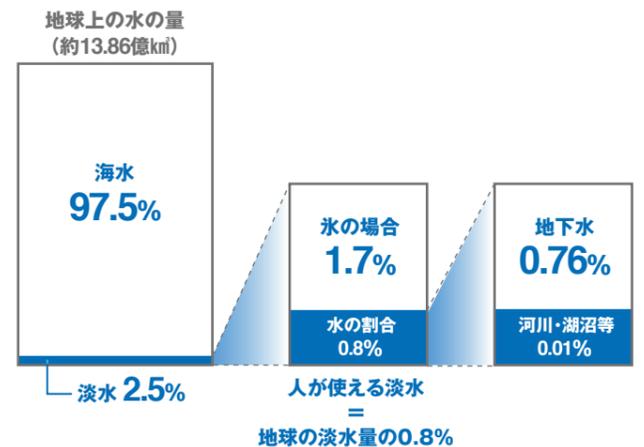
日本フルーフグループでは、製品の生産に関わる活動の廃棄量は把握しています。まずはレベル1として、分別や歩留まり改善活動をこれまで以上に進めること、また処理をいただく事業者の技術を見極め、廃棄物が再資源化される余地を少しずつ拡大していきます。またレベル2として、開発段階などでの設計や材料見直し、製造段階などでの材料の再利用で排出量そのものを減らす活動、また使用された商品が再利用・再生部品となる活動にも取り組みます。これらは私たち単独ではなく、ステークホルダーのご協力も得ながらバリューチェーン、ライフサイクルを見渡し、共に活動に取り組むことで課題解決につながる活動としていきます。



水資源

水資源の現状

- 地球上の水のうち、約97.5%は海水で淡水は残り2.5%ほどしかありません。そして淡水の約70%は南極や北極地域の氷であるため、私たちが生活に利用できる淡水(地下水、川、湖、沼などの水)は、地球上の総水量のうち0.8%しかありません。
- 世界の人口が増加=水の需要の増加
世界の水需要は2000年から2050年の間に55%の増加と予測されています。うち製造業の工業用水は400%増加と見込まれ、世界では水需要がひっ迫すると想定されています。
- 地球温暖化による気候変動は、大雨や干ばつなどの異常気象を引き起こし、水需要の増大、豪雨による水質悪化、少雨による河川流量の減少などが発生します。



World Water Resources at the Beginning of 21st Century ; UNESCO,2003, 及び、国土交通省水資源部資料を参考に当社作成

フルーフの考え方

■水使用量

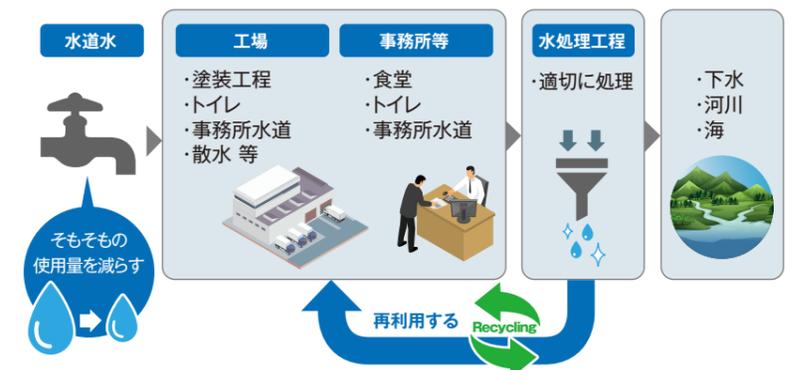
日本フルーフグループでは、主に塗装工程、食堂、トイレ、事務所で水を使用しています。厚木工場の水使用量は年間55千m³(2019年度)となっています。



■水資源保護活動の取り組み

日本フルーフグループは水資源の使用量低減など、活動を進め、水資源リスクを最小化します。

- ・水の使用量を徹底的に削減する
- ・徹底的に水をきれいにして還す



環境に優しい製品の取り組み



気候変動対応



資源循環

製品の開発において、環境課題に積極的に、かつ継続的改善をもって環境負荷の低減を目指し取り組みます。

WING ACE 新ウィングトレーラ Kシリーズ

大容量・高速トレーラ輸送時代をリードする最新のウィングトレーラ(R13ブレーキ規制対応※)

※ 国連欧州経済委員会が定めた自動車の世界統一法規のひとつ

●充実の装備

- ・高容積仕様：国内最大の内法幅2,410mmを実現。1,200mm幅パレットが内法幅方向に2列積載可能。
- ・ウィング開閉スロースタートストップ機構を採用。雨滴を荷室に巻き込む現象、及び騒音を低減。

●さらなる防錆性能の向上

- ・業界トップクラスの塗装技術を投入。

永年フルハーフが培ってきたトラックボディ塗装技術をトレーラに投入!お客様のロングライフユースに対応しています。



4つのポイント

- 部品単体状態で隅々まで **ショットブラスト加工!**
- 防錆能力、密着性抜群の **3層コーティング!**
- 焼付塗装**で塗膜の強度と表面のツヤがアップ!
- 寒冷地の塩カル対策を考え、**下廻り塗装を強化!**

3層構造

3層のコーティングにより、お客様の車両を錆からお守りします!
※使用用途によって防錆能力が異なります。



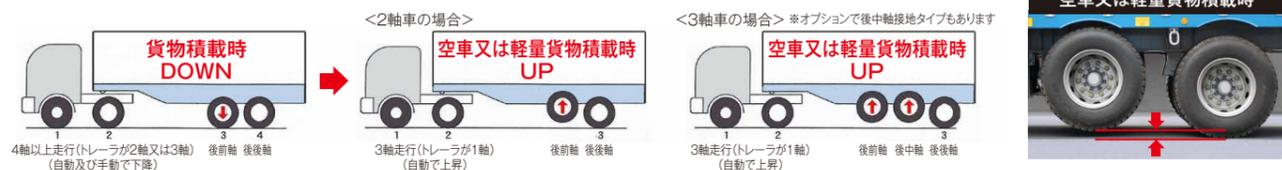
●燃費向上、ランニングコスト低減

- ・リフトアクスル機構採用により燃費の向上、また、タイヤ・ブレーキ等の摩擦・磨耗が低減などランニングコストを低減。さらには高速道路の通行料金をも低減します。また、荷役環境に柔軟に対応します。

リフトアクスル機構 ※超低床モデルを除く全エアサス車にオプション設定

積み荷の量に応じてトレーラの接地軸を1軸にすることで、高速道路料金区分のメリットを受けることができます。

- 高速道路の通行料を低減
- ランニングコストを低減
- 電子式による全自動型リフト機構
- 荷役環境に柔軟に対応
- 省燃費で環境にやさしい車両



環境に優しい部品の採用

●低消費電力・長寿命部品の採用

室内灯やマーカーランプ類に加え、電光看板、作業灯などもLED化を進めています。これにより、消費電力低減及び発光部の長寿命化を図りました。



LED電光看板



LED作業灯

日本フルハーフ(株)製造第二部 塗装・フレームグループ



気候変動対応



水資源

最近の活動として、「有害物質レス塗料の推進」と「資源の有効な活用」に取り組んでいます。

「有害物質レス塗料の推進」活動のひとつに、「防錆塗料(錆の発生や進行を抑制する塗料)を2020年度中に有害物質が含まれていないエコ塗料に切り替える」があります。トラックシャーシに塩化カルシウムなどによる錆防止のため防錆塗料を使用していますが、現在では原料を溶かしたり、塗料を乾きやすくするため、有害物質であるトルエンを含んでいるものを使用しています。それに対して防錆性能は現状のもの変わらず、環境に配慮したエコ塗料に変更します。そのことで作業環境の改善や大気汚染の防止に良い影響を及ぼすことが期待



左側より木野目さん、グループリーダーの野口さん

されています。

また、「資源の有効な活用」では、設備を導入することにより効率化を目指しています。2017年1月から稼働を開始した電着塗装工場では一部自動設備を導入しました。これまで塗装の条件は作業者の経験によって管理していましたが、現在では設備条件を管理することで、材料の効率よい使用ができるようになりました。



電着塗装工場

日本フルハーフ(株)購買部



資源循環

購買部は部門環境方針である「環境保全に配慮したグリーン購買を推進」に基づき、部員全員が環境保全に気を配って活動しています。具体的には以前より「工場内パトロール」、「部内環境会議」を積極的に行ってきました。「工場内パトロール」では、グループ制で1グループが月に1回巡回します。そこで「リデュース、リユース、リサイクル(3R)」につながる改善点を見つけ出し、「部内環境会議」で環境活動に展開していきます。毎年6件改善するよう、目標を設定して取り組んでいます。パトロールで気が付いた点は製造部門にも共有しています。2019年度では主に部材の歩留まり改善に効果がありました。例えば、サイドドアガasket(※1)は47%、コーナーキャップ(※2)は18%の歩留まりが向上しました。



部内環境会議



トラックあおり

また、「ビニール廃棄量の削減」も成果のあった活動の一つです。以前は「トラックあおり」にはキズ防止として表面にビニールシートが貼り付けられた状態で納入されていましたが、ビニール廃棄量の増加と、あおり表面のシミ汚れの原因になっていました。2019年度にシートレスにトライし、2020年5月より完全シートレスにしました。ビニール廃棄量の削減だけでなく、部材の品質改善にも成果を出しています。本活動は日本フルハーフ厚木工場で実施していますが、今後はフルハーフ岡山、フルハーフ九州でも進めていく予定です。

※1サイドドアガasket 機密性向上を目的とした、トラックボディ側面ドア内側に取り付けている部品
※2コーナーキャップ 保護を目的とした、トラックボディ側面ドア外周に取り付けている部品

フルハーブのばら



お家でも
さまざまな
ばらが観賞
できます！



「工場に潤いを」その想いが色味の無い工場に明るさをもたらしました。1979年、当時の常務取締役である佐藤三樹三氏の想いから生まれ、現在も尚、日本フルハーブ株式会社の社風とも言えるばら観賞会が毎年行われています。1,000本を越える工場内のばらは従業員の手によって植栽され、工場の敷地内で配置や仕立てに試行錯誤を重ねながら綺麗な彩りを添えています。毎年5月に開催を予定しているばら観賞会へ是非お越しください。



相模川ローズガーデンへお届け

日頃より親交のあった相模川ローズガーデン(神奈川県厚木市)が2019年10月に台風19号の影響で大きな被害を受けられました。復興に少しでもお役に立てるように、また新型コロナウイルスの終息を願って、ばらの苗木50本を寄贈させていただきました。

長年引き継がれ、大切なばらを育てております。沢山の皆様に魅力を感じてもらい、喜びを届けることができることを大変嬉しく思っております。今後もばらを大切に育て続け、人と人が繋がる活動を日々模索していきながら、皆様に少しでもお役に立てるような、新しい価値を生み出していきたく、と考えております。



前列左から グループリーダーの玉置さん 葛坂さん 曾根さん
後列左から 近藤さん 鈴木さん 本館さん 栗原さん 大山さん

今年で第33回目となる2020年度の「ばら観賞会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため残念ながら開催中止となりました。しかし、フルハーブの1,000本のばらをご覧いただきたい、地域・物流業界の皆様映像と音楽で少しでも癒しをお届けしたい、と考えました。そこで今回初めて、ホームページ上の「バーチャルばら観賞会」を公開しました。映像のばらも、みなさまより大好評いただいております。



バーチャル
ばら観賞会はこちら

これからも
きれいなばらを
大切に育てて
いきます♡



環境パフォーマンスデータ



*本ページのデータは全て日本フルハーブ株式会社の活動

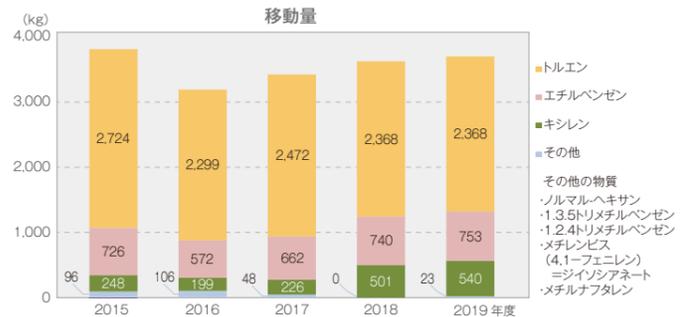
■エネルギーとCO2



■廃棄物



■化学物質管理



*メチルナフタレンは、製造過程を通じて、排出量と移動量はゼロになる。
*メチレンビスは、製品に塗布するため、排出量と移動量はゼロになる。

■環境保全コスト

分類	主な取り組み	2018年度		2019年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト	—	17.6	124.9	80.5	138.7
	内訳(1) -1 公害防止コスト	0.0	7.5	59.0	8.1
	(1) -2 地球環境保全コスト	17.6	4.0	21.5	4.0
	(1) -3 資源循環コスト	0.0	113.4	0.0	126.6
(2) 上・下流コスト	—	0.0	0.0	0.0	0.0
(3) 管理活動コスト	ISO維持、事業所内緑地整備	0.0	33.0	0.0	34.4
(4) 研究開発コスト	環境配慮製品開発	0.0	39.1	0.0	23.0
(5) 社会活動コスト	地域の皆様への支援	0.0	9.6	0.0	8.7
(6) 環境損傷対応コスト	—	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		17.6	206.6	80.5	204.8